



横浜市立田奈小学校 学校だより

平成28年12月 1日

12月号



みのたなくん

校長 二瓶 光代
TEL 981-0009

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/tana/>

朝会つづき話

校長 二瓶 光代

休み時間、校長室前にある「朝会つづき話」コーナーの果物（カリン）を手にして鼻を近づけている子どもがいます。

「いいにおい・・・。」

地域の方からいただいたカリンのことを朝会で話したところ、香りや固さというカリンの特徴を確かめに来ているのです。中には、

「これ、さるかに公園にも、あるよ。」

と、地域のカリン情報を教えてくれる子もいます。

「朝会つづき話」コーナーとは、朝会の話静静地に聞いて終わりというのではなく、話に対して自分の考えを持ったり、興味関心を持ち続け追究したり、さらには、学ぶきっかけは身の回りにもあるということに気付いてほしいという願いから考えたものです。内容を振り返ることができるよう朝会で使った絵や写真さらには、実物などを展示しているコーナーです。現在、果物や野菜の他に校内のバラ「はまみらい」も飾られています。ピンク色の美しい「はまみらい」が、地域の方と用務員さんの力でよみがえったことを以前話したからです。横浜開港150周年記念のこのバラは香りが自慢といわれています。「はまみらい」の芳香を直に確かめてほしいと思い、「朝会つづき話」として飾っているのです。

夏休み前、このコーナーには「ハウネンエビ」の入った水槽が最大4つ並びました。気になっていた田んぼの謎の生物（ハウネンエビ？カブトエビ？）が、今年はまだ見つからないという話をしたところ、放課後一人の子が田んぼで見つけた「ハウネンエビ」の実物を持って来てくれました。その後、私と子ども達が見つけたハウネンエビの水槽は増えていきました。関係する本を見つけて、持って来てくれた子ども達もいます。コーナーは、進化し続け、面積はどんどん拡大していきました。長い期間、コーナーの回りには子ども達の輪ができていました。子ども達は、「ハウネンエビ」の不思議さを感じ取っていました。「ハウネンエビ」が元気なうちに田んぼに返し、卵を産んでもらい、また、来年会おうという形で、学習は来年につながりました。

朝会では、自然の素晴らしさ・命の大切さや自分の成長に気付くような話、追

究する意欲が高まったり、なかよく学校生活を送ろうとする気持ちを持つことができたりする話などで学校教育目標「知」「徳」「体」「公」「開」に迫りたいと考えています。子ども達の中に自ら学び、つづき話コーナーを共に創ったり、教室や放課後の生活の中で発展させたりする姿が見られるようになってきたことをうれしく思います。